

はばたき

habataki
第53号

発行日:2017年
(平成29年)
3月



主な内容

- ★全国児童館・児童クラブえひめ大会参加報告
- ★いわて子どもあそび隊報告
- ★研修会報告・予定

表紙の写真

いわて子どもあそび隊

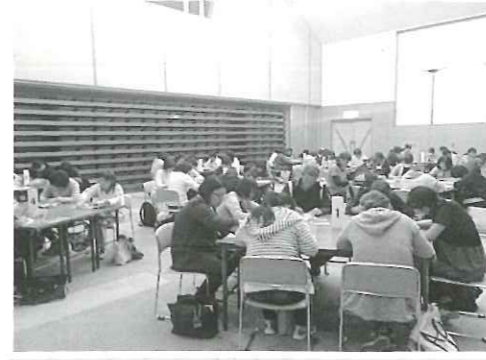
今年度も、たくさん子ども達と遊びました！
出会った子ども達はみんな元気いっぱいです！

研修会報告

児童健全育成関係者のスキルアップのために 児童厚生二級認定6科目の研修会を開催

当協議会では、平成24年度から、3年以内で認定12科目が履修できるように計画的に研修会を実施しており、今年度は4回の研修会により6科目を実施しました。

理論科目では、「児童館論」、「放課後児童クラブ論」、「配慮を要する児童の対応」「集団援助活動」の4科目を実施し、特に、児童館論と放課後児童クラブ論については、定員80名に対し100名を超える申込みをいただきました。



表現活動



ゲーム・運動遊び

実技科目では、「親子体操インストラクター」の岩淵みどり氏による「ゲーム・運動あそび」と、東日本大震災の被災地域など、困難な環境下で暮らす子どもたちに造形あそびを中心としたワークショップを提供している「心輝く造形あそびプロジェクト」からふる「代表片岸なお子氏による「表現活動」を実施しました。

「表現活動」では、受講者の皆さまが実際にボールペンや色鉛筆を用いて心のままに描き、表現する楽しさを学びました。

平成29年度の 認定科目研修計画

平成29年度における当協議会での児童厚生二級認定科目の研修実施予定は左表のとおりです。

資格取得を目的とした受講は勿論のこと、知識・技術のスキルアップを目的とした受講についてもぜひご検討ください。

なお、資格取得に係る科目の読み替えや資格の取得方法につきましては、(財)児童健全育成推進財団までお問い合わせください。

(03-3486-5141)

H29年度研修実施科目

- 安全指導・安全管理
- 児童の発達理論
- 地域福祉活動
- ゲーム・運動あそび
- 表現活動
- 救急法

いわての仲間とつながろう!

～児童館・児童クラブモバイルサイト～

当会では、平成21年度に全国大会が当県で開催された際に、情報発信の場として活用したサイトを継続して運用しています。

各館での行事や普段の様子など、お気軽に発信してください。当会事務局まで情報をお寄せいただければ、こちらで掲載させていただきます。

いわて子どもあそび隊情報も随時掲載していますので、是非一度ご覧ください!

パソコンからご覧になれます。
<http://iwatejido.jugem.jp/>

ブログはこちらから
スマートフォン、タブレットでQRコードをスキャン



加報告
参報

全国児童館・児童クラブえひめ大会

岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会 会長 平野 勝正

新年度を迎える候となり、それぞれの児童館、放課後児童クラブでは、次年度の事業計画の作成等に多忙な日々と
思います。

また、当協議会の運営及び事業の推進に、ご理解とご協力を賜っており、ことに、心から感謝申し上げます。
ところで、去る2月4日(土)～5日(日)に、愛媛県松山市で、全国児童館・放課後児童クラブえひめ大会が開催されました。本県からは3人の参加と少なかったですが、いつもの大会のように熱い思いに包まれた2日間でした。今回は、その模様を報告します。



オープニング(書道ガールズ)

トークセッション

大会は、開会式の後、「児童館改革の扉」そのカギをさがして」と題し、児童館は地域の資源、公共の財として児童館の価値が上がるようになるためには、その扉を開くのは何かを問うということ、4人の登壇者により意見が述べられました。

愛媛県の久万町で民間の児童館を経営している館長の白川真理さんは、地域の皆さんに、児童館、放課後児童クラブ、子育て支援センターを知ってもらい、子どものことを考えてもらい、話し合っていたことをねらいとして、「地域カフェ」を始めました。そこには、大人も子どもも集まって、また、高齢者も赤ちゃんも連れて来られて、お互いに交流することでした。ときには、社会福祉協議会と連携し、中山間集落や限界集落を訪問し、交流したりしているとのこと、このような活動を通して、子どもたちの幸せ感を、地域に伝えることが大事であると述べました。

東京都世田谷区の喜多見児童館の山田勝政館長は、子どもの心の貧困の対応として食堂を始めましたが、児童館



トークセッション

が施策に位置づけられる秘訣は、地域に児童館が認められ、児童館がなくなつては困るという声上がることである。児童館は地域の人の協力が大事であると話していました。

一方、新潟大学の植木信一准教授は、今の児童館には多様性とジレンマがある。豆まきでも、乳児、幼児、小学生、外国籍の子などが参加できる多様性があるなど、ニーズに対する多様性がある一方で多様化に対応するジレンマもあると思っっている。また、児童館長の役割は、地域と児童館をつなぐことであり、常勤で専任であれば意識も、動きやすさも違ってくるのが児童館研究から

成ということとは、Children First、であること。これが今後の児童館改革のカギになるのではないかと、また、弱者を救済できる人を育てる、それが児童館であり、児童福祉であると話しました。

分科会

10の分科会で、それぞれ、参加者による討議が行われました。

私は、このところ本県において児童館が減少する傾向がみられることから、第7分科会「児童館の価値」児童館「サバイバル」児童館ができる、なくなる」に参加し、意見交換をしました。

今日、ある地域では児童館が開設され、又はある地域では閉館という両極端な状況にある中で、「児童館サバイバル」と題して、児童館が生き残るためには何かが必要か、児童館になくてはならないもの何かについて、討議されました。

現在の児童館の問題として、「児童館としての意識」つくりが大事である、「10歳から18歳までの児童館である」とが問われている。「行政へのアピールが少ない」、「少子化の中で児童館は必要かに反論できない」、「地域に貢献したのが数字で表れない」、「いつまでもあると思つた児童館」、「突然休止になることもある、その危機を持っていない」などの意見がありました。

の方法」として、母親支援の実施や若い保護者に向けて情報発信すること、児童館の見える化を進めること、地域のいろいろな世代と連携した事業を行うことなどがあげられました。

また、昨年度本県の協議会の館長研修会で講師をお願いした、岐阜県の川上先生は、「あの児童館の職員は子どもを守ってくれる。そういうことがわかるように職員を育てることが大事であり、児童館の本質を踏まえ、さらにサバイバルし、生き残っていくことである。職員の立ち位置は、子どもの支援は児童館で完結するものではなく、地域と連携して子どもを支えていくことが大事である。」と述べていました。

発議

今回の大会のまとめとして、全国発議がなされました。それは、児童館Diversity宣言です。ダイバーシティとは、日本語で多様性と言いますが、まさに今、児童館は、乳幼児と親、小学生と中高生の支援はもちろんで、子どもの多国籍化、貧困など、自分ではどうしようもないところへの取組も子どもの支援となつていきます。

そこで、子どもも大人も、一人でも皆でも、運動好きな子ども嫌いな子ども、強い子ども弱い子ども、どの国の子ども、どんな家庭の子ども、というように様々な「違い」

を尊重して受け入れて、「違い」を活かす取組ができるのは児童館ならではの強みであるように、ということから、「児童館ダイバーシティ宣言」が発議されました。

感想

今回の大会に参加して、全国の児童館では、妊娠期の支援、幼児期の子育て支援、子どもの貧困に対応した食事支援や学習支援、国籍が違う子どもへの支援、地域の幅広い年齢層を対象とした交流、学校や関係機関と連携した個別の子どもの問題への支援など、多種多様な支援活動に取り組み、児童館の役割と機能という価値を懸命に実践していることを強く実感してきました。

本県においてもまさに「児童館サバイバル」の取組が求められているように思われます。児童館が、子どもたちの権利を保障し、安全が確保される居場所を提供するとともに、地域の子どもの貧困への支援、乳幼児と親への子育て支援など、多様な支援、地域の人たちや関係機関と連携して、積極的に取組み、地域の児童館として役割を果たしているというエビデンスを発信して参りましょう。

台風10号への対応

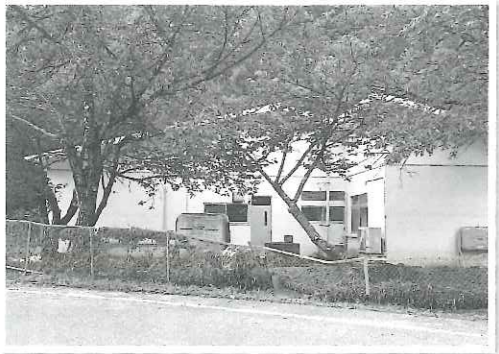
東日本大震災から六年が経過し、復興が進みつつあった今年度八月、これまでにない強力な台風が岩手県を通過しました。

その台風10号によって起きた川の氾濫や浸水は、当会会員の児童館の施設にも、大きな被害をもたらしました。

当会では、被害があった会員施設に対し、当会会員の皆さまから寄せられた義援金11万6千4百円を送金しております。

募金にご協力いただき、大変ありがとうございました。

去る3月13日に開催されました平成28年度総会において、田代児童館館長様からも、お礼の言葉をいただいております。



被災した田代児童館(宮古市)